

BUDŌ

# NEWS

## 今月のニュース

未来のメダリストたちが競い合う  
高校柔道日本一の座をかけて、

第35回全国高等学校柔道選手権大会

平成25年3月19日、20日  
於・日本武道館



男子団体優勝＝東海大浦安（千葉）





男子団体決勝代表戦＝  
東海大浦安・ウルフ（左）対国士館・田崎

男子  
団体

# 東海大浦安（千葉）が2連覇

## 全国高等学校柔道選手権大会

第35回全国高等学校柔道選手権大会は、3月19日（個人戦）、20日（団体戦）の2日間、延べ1万人の観客を集めて、日本武道館で開かれた。

男子団体戦では、昨年3冠（本大会、金鷲旗、インターハイ）の東海大浦安（千葉）が2年連続2回目、女子は敬愛（福岡）が2年ぶり2回目の優勝を遂げた。

個人戦、男子無差別では、佐藤和哉（静岡・静岡学園）が準決勝でウルフアロン（東海大浦安）、決勝で田崎健祐（東京・国士館）を降して優勝。

女子無差別では、昨年皇后盃3位の朝比奈沙羅（東京・渋谷教育学園）が月波光貴穂（愛媛・新田）を、63kg級では池絵梨菜（大阪・東大阪大敬愛）が津金恵（長野・松商学園）をそれぞれ決勝で降し、優勝を果たした。

### ■男子団体戦

全国の予選を勝ち抜いた52チームが集まった。トーナメント方式、1チーム5名の勝ち抜き戦、試合時間は3分（決勝のみ4分）で競われた。前回優勝の東海大浦安（千葉）は、



男子団体優勝＝東海大浦安（千葉）



代表戦、東海大浦安・ウルフ（上）が国士館・田崎を縦四方固で抑え込む



東海大浦安・前田（手前）対国士館・森＝前田が小外刈で一本勝を収める



国士館・田崎（右）対東海大浦安・村田＝田崎が小内刈で村田を降す

初戦（2回戦）で北海（北海道）を2人残し、3回戦で水戸啓明（茨城）を2人残し、準々決勝で小杉（富山）を3人残しで降した。

準決勝は、東海大相模（神奈川）と対戦。試合は東海大相模の副将・春日良太が、東海大浦安の大將・ウルファロンを引き出し、相模が一步リードする展開となった。しかし、東海大浦安は、ウルフが春日を支釣込足で、東海大相模大將・眞砂谷幸弥を優勢勝で退け、決勝へと駒を進めた。

一方のブロックでは、国士館（東京）が準々決勝で大成（愛知）を2人残し、準決勝で桐蔭学園（神奈川）を1人残しで降し、決勝の舞台に上がった。

▽決勝  
東海大浦安（千葉） 国士館（東京）  
（※代表戦で東海大浦安の勝利）

折原虹之介	引分	磯田範仁
山寺裕斗	優勢勝○	森翔平
前田宗哉	○小外刈	森翔平
前田宗哉	引分	吉良儀城
村田大祐	小内刈○	田崎健祐
ウルファロン	○優勢勝	田崎健祐
ウルファロン	引分	江畑丈夫

代表戦  
ウルファロン○合技 田崎健祐

東海大浦安は副将同士の戦いで村田が国士館・田崎に小内刈で敗れて、後がなくなるも、大將のウルフが田崎を優勢勝（指導2）で降し、江畑と引き分けた。その結果、勝負は代表戦に持ち越された。

会場は両校の応援合戦で大盛り上がり。代表戦は、東海大浦安・ウルフと国士館・田崎の対戦となった。

左組み同士の戦い。序盤、ウルフは大内刈から内股の連絡技で攻める。たまたま崩れる田崎だったが、畳に着く間際にうつつ伏せになり、なんとかこれを凌いだ。

その後、ウルフは組んだ状態から、田崎が頭を下げたタイミングに合わせて支釣込足を放ち、技有を奪う。さらに縦四方固に移り、合技で一本勝を収めた。ウルフの活躍で、東海大浦安は2連覇を果たした。

◎優勝Ⅱ東海大浦安大將・ウルファロン選手  
「監督から2、3人まわってくるかもしれないから、覚悟しておけるとわかっていました。しっかり練習してきたので負けはしなれと思っていました。個人タイトルはまだありません。これから狙っていきます」

◎優勝Ⅱ東海大浦安・竹内徹監督  
「決勝は死闘でした。ウルフは私が声をかけるまでもなく、代表戦に臨む意気込みでした。その姿を見て、『頼むぞ』と一言伝えました。優勝しても涙は見せまいと思っ

■女子団体戦

全国の予選を勝ち抜いた48チームが集まった。トーナメント方式、1チーム3名の点取り試合、試合時間3分（決勝のみ4分）で争われた。

準決勝、敬愛（福岡）は、阿蘇中央（熊本）と対戦し、先鋒・次鋒が引き分けるも、大将の岡史生が勝利し、1―0で決勝進出を決めた。

一方のブロックでは松商学園（長野）が準決勝で、前回優勝の埼玉栄（埼玉）と対戦。松商学園は、中堅戦でエース津金恵が埼玉栄・安沙好を内股で降し、1―0で勝利した。



女子団体優勝＝敬愛（福岡）

▽決勝

敬愛（福岡） ①―1 松商学園（長野）

鷲崎風歌 優勢勝 武居沙知

芳田 司 引分 津金 恵

岡 史生 ○合技 出口クリスタ

先鋒戦は、攻め手を欠く鷲崎に指導が2つ与えられ、松商学園・武居の優勢勝。次鋒戦、初戦から全勝で調子に乗る松商学園・津金だったが、敬愛・芳田と引き分け、勝負は大將戦に持ち越される。

大將戦、体格で勝る敬愛・岡は、松商学園・出口を、小外刈で技有、大内刈を返して有効、送足払で技有

と翻弄。合技で勝利した。

結果、敬愛は得点差で勝利。2年ぶり2回目の優勝を果たした。

◎優勝Ⅱ敬愛大將・岡史生選手

「普段、体の大きな選手を想定して足技の稽古をしています。決勝の相手は小さかったのですが、やりづらは感じませんでした」

◎優勝Ⅱ敬愛・吉元幸洋監督

「厳しい試合が多く、疲れしました。松商学園と戦うことは想定していましたが、岡は力がつき、体がひとまわり大きくなったように感じました。気を引き締めて今後に臨みます」



女子団体決勝大將戦＝敬愛・岡（右）が松商学園・出口から送足払で技有を奪う

■個人戦

男女共に体重別4階級と無差別で行われ、各クラスには全国各都道府県の代表47名が揃った。トーナメント方式、試合時間3分、得点差がない場合はゴールデンスコアによる2分の延長戦、それでも決まらない場合は旗判定で勝敗を決した。

◇男子

▽60kg級

決勝は、浅利昌哉（北海道・東海大四）と小倉拓実（大分・柳ヶ浦）が対戦した。浅利は背負投で攻めるが、潰されて寝技の攻撃を受ける。しかし、仰向けの状態から足で小倉を返し、横四方固で抑えて一本勝を取めた。

▽73kg級

山本悠司（北海道・帯広農）と磯田範仁（東京・国士館）が決勝で対戦。2分過ぎ、山本が力任せの背負投で有効を奪う。そのまま時間となり、山本が優勝を果たした。

▽81kg級

決勝には、伊藤祐輝（福井・藤島）と佐藤佑樹（山形・東海大山形）が勝ち上がった。試合中盤、伊藤は佐藤に大内刈で攻められるが、奥襟を

男子 90kg級決勝＝前田（左）対江畑



男子無差別決勝Ⅱ  
佐藤（手前）が得意の大外刈で田崎を攻める

男子 60kg級決勝Ⅱ  
浅利（上）が小倉を横四方固で抑え込む



男子 73kg級決勝＝山本（下）対磯田



男子個人戦優勝者＝左から佐藤、前田、伊藤、山本、浅利

男子 81kg級決勝＝  
伊藤（奥）が佐藤の大内刈を返して一本勝した

取り、抱きかかえるように持ち上げてから畳に投げつけ、一本勝した。

▽90kg級

前田宗哉（千葉・東海大浦安）と江畑丈夫（東京・国士館）の決勝。1分過ぎ、奥襟を取ろうとする前田の組み手を嫌う江畑に指導。その後、前田は強引に大外刈を放つも決まらない。延長でも勝負がつかず判定となり、2―1で前田が辛勝した。

▽無差別

高校生ながら今年の全日本選手権の出場を決めている佐藤和哉（静岡・静岡学園）は、準決勝でウルファロン（千葉・東海大浦安）を大内返で退け、決勝で田崎健祐（東京・国士館）と対戦した。

試合中盤、佐藤が右、田崎が左のケンカ四つから、佐藤が左手で田崎の右襟を掴むや否や、大外刈で攻めると、これが技有となる。そのまま時間となり、佐藤の優勝が決まった。

◎無差別優勝Ⅱ佐藤和哉選手（静岡・静岡学園）

「ウルフ選手には前回大会で負けているので、気持ち切り替えて勝負しました。田崎選手には、得意の大外刈で技有を奪えて満足です」

▽無差別

高校生ながら今年の全日本選手権の出場を決めている佐藤和哉（静岡・静岡学園）は、準決勝でウルファロン（千葉・東海大浦安）を大内返で退け、決勝で田崎健祐（東京・国士館）と対戦した。

試合中盤、佐藤が右、田崎が左のケンカ四つから、佐藤が左手で田崎の右襟を掴むや否や、大外刈で攻めると、これが技有となる。そのまま時間となり、佐藤の優勝が決まった。

◎無差別優勝Ⅱ佐藤和哉選手（静岡・静岡学園）

「ウルフ選手には前回大会で負けているので、気持ち切り替えて勝負しました。田崎選手には、得意の大外刈で技有を奪えて満足です」

▽無差別

高校生ながら今年の全日本選手権の出場を決めている佐藤和哉（静岡・静岡学園）は、準決勝でウルファロン（千葉・東海大浦安）を大内返で退け、決勝で田崎健祐（東京・国士館）と対戦した。

試合中盤、佐藤が右、田崎が左のケンカ四つから、佐藤が左手で田崎の右襟を掴むや否や、大外刈で攻めると、これが技有となる。そのまま時間となり、佐藤の優勝が決まった。

◎無差別優勝Ⅱ佐藤和哉選手（静岡・静岡学園）

「ウルフ選手には前回大会で負けているので、気持ち切り替えて勝負しました。田崎選手には、得意の大外刈で技有を奪えて満足です」

取り、抱きかかえるように持ち上げてから畳に投げつけ、一本勝した。

▽90kg級

前田宗哉（千葉・東海大浦安）と江畑丈夫（東京・国士館）の決勝。1分過ぎ、奥襟を取ろうとする前田の組み手を嫌う江畑に指導。その後、前田は強引に大外刈を放つも決まらない。延長でも勝負がつかず判定となり、2―1で前田が辛勝した。

▽無差別

高校生ながら今年の全日本選手権の出場を決めている佐藤和哉（静岡・静岡学園）は、準決勝でウルファロン（千葉・東海大浦安）を大内返で退け、決勝で田崎健祐（東京・国士館）と対戦した。

試合中盤、佐藤が右、田崎が左のケンカ四つから、佐藤が左手で田崎の右襟を掴むや否や、大外刈で攻めると、これが技有となる。そのまま時間となり、佐藤の優勝が決まった。

◎無差別優勝Ⅱ佐藤和哉選手（静岡・静岡学園）

「ウルフ選手には前回大会で負けているので、気持ち切り替えて勝負しました。田崎選手には、得意の大外刈で技有を奪えて満足です」

◇女子

▽52kg級

決勝は内尾真子（神奈川県・桐蔭学園）対森由芽香（広島・清水ヶ丘）。試合序盤、内尾の背負投が決まらず、両者もつれながら倒れる。内尾は、すかさず森を横四方固で抑えて、一本勝した。

▽57kg級

出口クリスタ（長野・松商学園）は、階級を一つ上げて臨んだが力負けせず、初戦から3連続一本勝。準決勝は芳田司（福岡・敬愛）を優勢勝（有効）で退け、決勝で西尾直子（東京・帝京）と対戦した。

出口は試合中盤に巴投で有効を奪うと、そのまま縦四方固で抑え込んで勝利した。

▽63kg級

初戦から準決勝までオール一本勝の池絵梨菜（大阪・東大阪大敬愛）と、昨年のグラウンドスラム東京で優勝の津金恵（長野・松商学園）が決勝で対戦した。

池が左、津金が右のケンカ四つ。両者、指導を1つずつ受けて延長となる。津金が内股で攻めたところ、池は上から跨ぐようにして体重を預



女子70kg級決勝＝橋高（左）対永瀬



女子無差別決勝＝朝比奈（右）が月波を内股で攻める



女子63kg級決勝＝池（手前）対津金



女子57kg級決勝＝出口（上）が縦四方固で西尾から一本勝ちを収めた

けながら倒す。これが有効となつて、池が優勝を果たした。

◎63kg級優勝Ⅱ池絵梨菜選手(大阪・東大阪大敬愛)

「津金選手は内股をかけるときの崩しが上手なので、隙を与えないよう、攻め続ける柔道をしました」

▽70kg級

決勝は、橋高朱里(石川・金沢学院東)と永瀬貴子(福岡・冲学園)が顔を合わせた。延長30秒過ぎ、高は永瀬の奥襟をとって引き倒し、すぐさま肩固で一本勝した。

▽無差別

昨年皇后盃3位の朝比奈沙羅(東京・渋谷教育学園)は、決勝で月波光貴穂(愛媛・新田)と対戦した。試合終盤、朝比奈の内股が技有となる。朝比奈は、その流れで引き手を離さず、袈裟固で勝利した。

◎無差別優勝Ⅱ朝比奈沙羅選手(東京・渋谷教育学園)

「決勝戦は、延長になつても攻め続けるつもりで戦いました。これまでの月波選手との対戦では、判定勝はありましたが、きちんと押さえ込んだの勝利はなかったもので、とても嬉しいです」



女子個人戦優勝者=左から朝比奈、橋高、池、出口、内尾



女子52kg級決勝=内尾(上)が森を横四方固で抑え込む

【大会結果】

◎男子団体Ⅱ①東海大浦安(千葉)

②国士舘(東京) ③東海大相模

(神奈川)、桐蔭学園(神奈川)

◎女子団体Ⅱ①敬愛(福岡) ②松

商学園(長野) ③埼玉栄(埼玉)、

阿蘇中央(熊本)

◎男子個人

▽60kg級Ⅱ①浅利昌哉(北海道・

東海大四) ②小倉拓実(大分・

柳ヶ浦) ③佐藤裕介(群馬・前

橋育英、大島拓海(徳島・阿波)

▽73kg級Ⅱ①山本悠司(北海道・

帯広農) ②磯田範仁(東京・国

士舘) ③末木貴将(広島・近大

福山)、吉村豪(愛媛・新田)

▽81kg級Ⅱ①伊藤祐輝(福井・藤

島) ②佐藤佑樹(山形・東海大

山形) ③金山天地(大分・柳ヶ

浦)、竹中英士(東京・足立学園)

▽90kg級Ⅱ①前田宗哉(千葉・東

海大浦安) ②江畑丈夫(東京・

国士舘) ③白川剛章(福井・福

井工大福井)、佐藤允哉(広島・

近大福山)

▽無差別Ⅱ①佐藤和哉(静岡・静

岡学園) ②田崎健祐(東京・国

士舘) ③ウルフアロン(千葉・東海大浦安)、三村暁之(広島・崇徳)

◎女子個人

▽52kg級Ⅱ①内尾真子(神奈川・

桐蔭学園) ②森由芽香(広島・

清水ヶ丘) ③杉本祐海(熊本・

阿蘇中央)、近藤亜美(愛知・大成)

▽57kg級Ⅱ①出口クリスタ(長野・

松商学園) ②西尾直子(東京・

帝京) ③芳田司(福岡・敬愛)、

須加梓紗(群馬・前橋育英)

▽63kg級Ⅱ①池絵梨菜(大阪・東

大阪大敬愛) ②津金恵(長野・

松商学園) ③能智亜衣美(宮崎・

宮崎日大)、鈴木夏海(愛媛・

新田)

▽70kg級Ⅱ①橋高朱里(石川・金

沢学院東) ②永瀬貴子(福岡・

冲学園) ③森田智子(東京・帝

京)、山田美咲(大阪・星翔)

▽無差別Ⅱ①朝比奈沙羅(東京・

渋谷教育学園) ②月波光貴穂(愛

媛・新田) ③新垣さつき(沖縄・

沖縄尚学)、滝川真央(静岡・

富士市立)

# 待望の単行本化 嘉納治五郎と講道館の高弟をはじめとする日本人の手による柔道の国際的普及の歴史



# 柔道の国際化

## — その歴史と課題 —

講道館柔道を創始し、自ら柔道を世界に広めるため尽力した嘉納治五郎。嘉納の意思を受けて海外雄飛した、講道館を代表する高弟たち。彼らは如何に、どのような思いで、普及に取り組んだのか。数々の資料を繙き、柔道が世界的な競技となるまでの先達の足跡をたどる。そして、そこから見えてきた運動文化の国際的普及における課題とは。

(四六判・上製・552頁)

財団法人講道館 図書資料部長

村田直樹 著

題字 講道館名誉館長・嘉納行光



### 第1章 普及への意思

柔道史の原点  
欧州教育事情視察

### 第2章 海外への進出

米国大統領の入門  
新大陸へ派遣第2号  
異種格闘技に生きた前田光世  
英国柔道の基礎―武道会  
武道会を訪れた嘉納と高弟会田  
小泉が語る英国柔道史  
仏蘭西への道

メトード・カワイシとは何か  
駐仏日本国大使 杉村陽太郎  
続々と仏蘭西へ  
海外より見た柔道―独逸通信  
東洋への進出  
異文化理解の容易なぞ

### 第3章 国際柔道連盟の結成

国際柔道連盟設立の前夜  
嘉納近き連盟成らず  
欧州から国際柔道連盟の結成  
講道館長、国際柔道連会長に就任  
世界柔道選手権大会開催  
東京五輪招致成功  
東京五輪と正式種目柔道  
パリの仇  
体重別に勝ち、無差別に散る

### 第4章 道とスポーツ

日本の後退 欧州の前進  
変わり行く柔道  
不易流行



編集・発行 日本武道館  
〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3  
ホームページhttp://www.nipponbudokan.or.jp

お問い合わせ・ご注文は  
日本武道館出版広報課  
までどうぞ!

TEL03(3216)5147  
FAX03(3216)5158

日本武道館発行の単行本 (本をクリックすると、詳細が表示されます)



# 日本の武道

日本武道館 編

(B5判・上製・箱入・526頁)

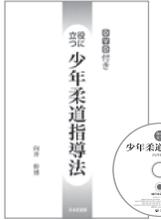


# BUDŌ: THE MARTIAL WAYS OF JAPAN

日本武道館 編

翻訳・編集:アレキサンダー・ベネット

(B5判・上製・DVD付・336頁)



# 役に立つ 少年柔道指導法

講道館道場指導部課長

向井 幹博 著

(A5判・並製・DVD付・414頁)



# 女子柔道の 歴史と課題

筑波大学大学院准教授

山口 香 著

(四六判・上製・412頁)



# マンガ・ 武道のすすめ

漫画家・別府大学教授

田代しんたろう 著

(B5判・並製・236頁)



# 武道における 身体と心

神戸学院大学教授

前林 清和 著

(四六判・上製・370頁)



# 柔道は すばらしい

柔道塾紀柔館館長

腹巻 宏一 著

(四六判・上製・310頁)



# 今、なぜ武道か

—文化と伝統を問う—

福島大学教授

中村 民雄 著

(四六判・上製・370頁)



# 大先輩に聞く

月刊「武道」記者

田谷 将俊 著

(四六判・上製・376頁)



# 武道 過去・現在・未来

国際武道大学教授

田中 守 著

(四六判・上製・274頁)



# 武道 子どもの心をはぐくむ

早稲田大学教授・教育カウンセラー

菅野 純 著

(四六判・上製・410頁)



# 嘉納治五郎師範に学ぶ

講道館図書資料部長

村田 直樹 著

(四六判・上製・292頁)



第50回 関東小学生剣道錬成記念大会

# 文武両道の鍛錬に励む

第50回関東小学生剣道錬成記念大会（主催Ⅱ東京都少年剣道研究会）は、4月14日、日本武道館で開催された。大会には180団体、小学4年生から中学1年生の少年少女剣士、約2200人が参加した。



掛かり稽古



「ちかいのことば」  
上原晴登（佐倉道場栄武館）



「感謝のことば」  
小川友輝（境剣友会）

試合は、男女別・学年別に分かれて16試合場で個人戦トーナメント方式で行われた。各試合場では選手が日頃の稽古の成果を存分に発揮し、熱戦が繰り広げられた。

また、「文武両道」の文の部として、「大会作品道場」の作品を募集した。試合の間、日本武道館の一

開始式が終わると、各団体の指導者が元立ちとなって掛かり稽古を行った。子供たちは元氣よく稽古に励み、汗を流した。その後、指導者は互角稽古を行った。

続いて、祝賀演武として警視流木太刀形と日本剣道形の演武が行われた。

始めに参加団体の選手代表が入場行進した後、開会式が行われた。新6年生代表の上原晴登（千葉・佐倉道場栄武館）が「自ら考え行動できるように、常に最上級生として自覚を持ち、日々の生活と練習に励みます」と「ちかいのことば」を読み上げた。これに対し、新中学1年生代表の小川友輝（茨城・境剣友会）が「感謝のことば」として「先生方の教えを忘れず、日々努力していきたい」と力強く決意を述べた。



警視流木太刀形の演武を真剣に見る少年少女剣士



熱戦を展開



大会作品道場「書道の部」

室では大会参加者が稽古着のまま、書道の作品を書き上げていた。「書道の部」「絵の部」「作文の部」の3部門において、それぞれ優秀作品が選出された。

閉会式では、瀧澤秀夫東京都少年剣道研究会副理事長の発声で万歳三唱が行われ、大会は盛会裡に幕をおろした。

### 【大会結果】

#### ◇剣道優勝者（中学1年生）

- ▽井上涼（相模原新磯剣心会）
- ▽浅田祥吾（蓮田市城剣友会）
- ▽淀縄樹生（瀬谷区剣道連盟）
- ▽笹島千裕（宇都宮市凌雲館）
- ▽水村公太（新座市池田剣友会）
- ▽井出和希（横浜市横浜戸塚）
- ▽宇野隆志（千葉市大森剣友会）
- ▽上野知佐（宇都宮市真和館）
- ▽星野秀明（高崎市中央道場）
- ▽香山桜子（茂原市茂原武道館）

#### ■作品道場入選者

#### ◇書道の部

- ▽佐久間颯也（松原剣道スポーツ少年団・中1）
- ▽篠崎立成（つくば桜スポーツ少年団・中1）
- ▽伊藤幹（松武会・中1）
- ▽切通魁人（岬町少年剣友会・中1）
- ▽武井萌（習武館・中1）
- ▽西智史（印南剣道スポーツ少年団・中1）
- ▽田中葵（一宮尚武会・中1）
- ▽江澤佑真（岬町少年剣友会・小6）
- ▽渡辺ミウ（鴨川市鴨警剣友会・小6）
- ▽東田周平（緑が丘剣友会・小6）
- ▽永山海紀（日本武道館研修セン

#### ◇絵の部

- ▽勝又崇文（三島剣道スポーツ少年団・中1）
- ▽藤田鉄平（桜剣道スポーツ少年団・中1）
- ▽佐藤花音（八潮市剣道連盟・小5）
- ▽三河優（桜剣道スポーツ少年団・小6）
- ▽西智史（印南剣道スポーツ少年団・中1）
- ▽道岡佑太（養浩館道場・小6）
- ▽高橋輝里人（本妙寺剣道教室・小6）

#### ◇作文の部

- ▽上野知佐（真和館・中1）
- ▽篠原彩音（赤羽剣友会・小5）
- ▽阿久扇汰朗（瀬谷区剣道連盟・中1）
- ▽勇士汐音（瀬谷区剣道連盟・中1）
- ▽吉田姫美（習志野剣志会・小4）
- ▽宇田川武大（印南剣道スポーツ少年団・中1）
- ▽有村波郷（鷺沼剣友会・小6）

日本武道館の単行本

# 著者の80年の生涯にわたる 剣道修錬を集大成した 本格的剣道修行論

好評発売中!



写真提供：『剣道時代』

# 剣の清流

全日本剣道連盟相談役・剣道範士九段

堀籠

敬藏 著

(四六判・上製・344頁)

目次

- 第一章 剣道
- 第二章 剣道の歴史
- 第三章 修錬・先人に学ぶ
- 第四章 剣道の極意
- 第五章 武道における「礼」
- 第六章 剣理
- 第七章 指導者としての心構え



編集・発行 日本武道館

〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3  
ホームページ <http://www.nipponbudokan.or.jp>

お問い合わせ・ご注文は  
日本武道館出版広報課  
までどうぞ!

TEL03(3216)5147  
FAX03(3216)5158

日本武道館発行の単行本 (本をクリックすると、詳細が表示されます)



# 日本の武道

日本武道館 編

( B5判・上製・箱入・526頁 )



# BUDŌ: THE MARTIAL WAYS OF JAPAN

日本武道館 編

翻訳・編集:アレキサンダー・ベネット  
( B5判・上製・DVD付・336頁 )



# 高め合う剣道

筑波大学名誉教授

佐藤 成明 著

( 四六判・上製・564頁 )



# 刀剣の 歴史と思想

筑波大学大学院准教授

酒井 利信 著

( 四六判・上製・346頁 )



# マンガ・ 武道のすすめ

漫画家・別府大学教授

田代しんたろう 著

( B5判・並製・236頁 )



# 武道における 身体と心

神戸学院大学教授

前林 清和 著

( 四六判・上製・370頁 )



# 禅の思想と剣術

北海道大学大学院教授

佐藤 錬太郎 著

( 四六判・上製・386頁 )



# 今、なぜ武道か

—文化と伝統を問う—

福島大学教授

中村 民雄 著

( 四六判・上製・370頁 )



# 人を育てる剣道

剣道範士八段

角 正武 著

( 四六判・上製・268頁 )



# 武道 過去・現在・未来

国際武道大学教授

田中 守 著

( 四六判・上製・274頁 )



# 兵法家伝書に学ぶ

文教大学教授

加藤 純一 著

( 四六判・上製・344頁 )



# 剣道で 学び得たもの

中京大学教授

林 邦夫 著

( 四六判・上製・298頁 )

# 全日本柔道連盟が「暴力の根絶」プロジェクトを発足

## 第1回会合を開催

全日本柔道連盟「暴力の根絶」プロジェクトが発足し、4月15日に講道館で初会合が開かれた。

プロジェクトには山下泰裕東海大教授・副学長・全柔連理事をチーム

リーダーに、友添秀則早稲田大学スポーツ科学学術院長をはじめとした有識者4名と、講道館、警察、大学、高校、中学、少年団の代表など、計17名が名を連ねた。

第1回の今回は今後の方針などが

話し合われ、暴力の定義付けや今後



山下泰裕チームリーダー

者の理解を得ていきたいという考えを明かした。

会合は原則毎週月曜に開かれ、6月の全柔連臨時理事会に具体案を提示する予定。

### ●山下泰裕チームリーダー

(東海大教授・副学長、全柔連理事)

「日本柔道界をどう改革していくかということが注目されていますので、速やかに事に当たることが大事だと思います。」

6月の臨時理事会までに具体的な取組をまとめていくのは至難の技ですが、理事会全員に協力を依頼していきたいです。

以前活動していた柔道ルネッサンス活動では、委員会単独で動いていましたが、今回は全柔連の各専門委員会と連動して取り組み、効果的に実行されるようにしていきます」

### 全日本柔道連盟「暴力の根絶」プロジェクトメンバー

氏名	所属
山下 泰裕	チームリーダー 東海大学教授・副学長 全日本柔道連盟理事
宇野 博昌	サブリーダー 全日本柔道連盟理事 同広報委員長
友添 秀則	早稲田大学教授 同スポーツ科学学術院長、スポーツ科学部長
菊 幸一	筑波大学大学院教授 スポーツ健康システム・マネジメント専攻長
宮嶋 泰子	テレビ朝日編成制作局アナウンス部 兼編成部上級マネジャー
寒川 恒夫	早稲田大学教授
大作 晃弘	全日本柔道連盟理事
北田 典子	女性柔道指導者
小志田憲一	講道館
落合 俊保	全日本柔道少年団理事
本橋 順二	駒場東邦中学校教諭
保坂 慶蔵	福岡県立筑紫丘高等学校教諭
吉見 浩二	高岡法科大学柔道部監督
栗原 孝至	東芝キャリア
松井 勲	全日本柔道連盟大会事業委員長 警察大学校
遠藤 義安	東北学院大学 日本視覚障害者柔道連盟理事
竹村 誠司	事務局

暴力事件が起こったときの対処法、現場の指導者の意識改革に取り組んでいくことが確認された。

また、啓発ポスターの作成も決定され、全国の柔道場に掲出するようにしていくという。

山下リーダーは今後、全国規模の大会における監督会議などに出席し、プロジェクトの方針や取組を説明し、現場指導



筑波大学大学院准教授 山口香 著

好評発売中

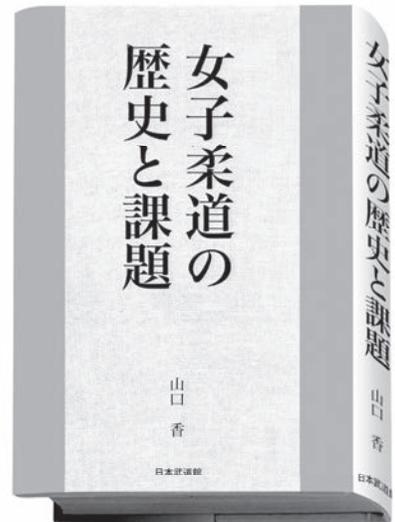
# 女子柔道の歴史と課題

世界トップレベルの活躍をする日本女子柔道。これまでどのような道を辿ってきたのか、草創期から競技化そして現在までの歴史を、元メダリストである筆者の体験を踏まえて詳説する。

後半は女性の視点から、女子が抱える心身の問題、女子を指導する際の注意点、将来のキャリア形成などについて論じ、さらなる発展の道を探る。

柔道関係者・武道指導者必読の一冊。

(四六判・上製・412頁)



## 目次

### ◎第1章 女子柔道の夜明け

女子柔道の始まり  
日本女性が受け継ぐ「柔の道」  
広がりを見せ、試合へと向かう女子柔道  
試合への道を切り開いてくれた世界の先駆者の女性たち

### ◎第2章 競技化への軌跡

世界への扉が開かれた第1回世界女子柔道選手権大会  
世界を目指した苦心の戦い  
福岡国際女子柔道選手権大会の歴史と意義  
女子柔道の五輪参加

### ◎第3章 世界のトップへ

田村亮子の出現 —新たな時代の幕開け—  
大会の新設と整う強化ライン  
実業団の取り組み —三井住友海上女子柔道部と柳澤久監督—  
アテネ五輪での快挙 —吉村和郎が伝えた勝利への執念—  
世界選手権を振り返る

### ◎第4章 柔道先進国と後進国

それぞれの事情  
フランスの女子柔道事情  
世界の女子柔道 —イスラム圏—

### ◎第5章 女子選手特有の問題

柔道指導における男女の性差  
先輩選手から学ぶ問題解決の糸口  
セクハラを中心とした倫理規定の必要性

### ◎第6章 引退後のキャリア

女子柔道選手引退後のキャリア—指導者—  
日本女子柔道倶楽部という試み  
女子柔道選手引退後のキャリア—海 外—

### ◎第7章 女子柔道の未来を探る

メダリストたちからのメッセージ  
歴代全日本女子監督に聞く

### ◎資料編

データで見る女子柔道競技の変遷  
福田敏子(講道館女子九段)・梅津勝子(講道館女子八段)講演  
年表 日本女子柔道界のあゆみ

編集・発行 日本武道館

〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3  
ホームページ <http://www.nipponbudokan.or.jp>

お問い合わせ・ご注文は  
日本武道館出版広報課  
までどうぞ!

TEL03(3216)5147  
FAX03(3216)5158